

ものづくり DXWG 第 1 回勉強会 質疑応答・意見交換の様子

1 日時：2025 年 12 月 17 日(水)10:00-12:00

2 場所：東海総合通信局 5 階テレビ会議室

3 参加者：本記録では質問者や回答者等参加者の所属等を表記せず、質問やその回答を次のとおり表記する。

・：質問や意見

→：質問対応、意見への反応

議事次第に沿って講演等を行い、質疑応答や意見交換を実施。議事次第は以下のとおり。

1 開会

2 座長挨拶

3 勉強会

演題 1：ものづくり DXWG における基本論点

講師：西川コミュニケーションズ株式会社 モビリティ DX 事業部

デジタルツイン部 セールオペレーショングループ

セールスプランナー 尾野 貴敏 氏

演題 2：町工場の DX への奮闘と AI 活用への挑戦

講師：株式会社オーテック 専務取締役 小川 大佑 氏

4 意見交換

講演への質疑応答や、意見交換の主なやりとりは次のとおり。

<西川コミュニケーションズ株式会社の講演について質問>

・論点がありすぎると優先順位をつけることが難しい。優先度が高い観点は何か。

→まずは現場の課題を把握して、そこから優先度が高い観点を決める。ソリューション側からの議論をするのではなく、現場は何に困っているのかという議論ができると良いと思う。

・中小企業は課題とツールが結びついておらず、どうしたらいいのか分からないところなのではないかと思う。ここが難しさの原点だと理解している。

・デジタルツイン、AI 活用、データ活用について、それぞれ何を重要視しているのか教えてほしい。

→それぞれが密接な関係をもっている。デジタルツインのなかには通信も入っているし、データ活用・AI も入っている。必要になるピースがこの 3 点であるという考え方をしている。デジタルツインというワードのなかに様々なコアがあるという考え方をした方が良い。

＜株式会社オーテックの講演について質問＞

- ・工場側の DX 推進はある程度できたのか、まだできることがありそうか。
- 外観検査 AI や異常検知 AI は未完成。技能伝承や生産管理の属人化が大きな課題。サプライチェーン管理は複雑で、AI を利用した最適なソリューションはまだ見つかっていない。
- ・自治体も現場の課題把握が難しく、デジタル化が進まない。組織の風土を変えていくことが重要だが、どのようにすれば良いか。
- 現場に情報通信技術に興味のある社員がいるが、そのような人材を見つけてうまくモチベーションも上げながら AI 技術等を導入すると良い。経営課題を共有し、モチベーションを高めることがオーテックの場合は成功に繋がった。
- ・工場を最近作ったとのことだが、情報通信技術の導入にあたり困難な点はなかったか。
- 正直デジタル技術は使っていない。デジタルツインを活用し、デジタル空間上でシミュレーションができれば効率化はできたかもしれないが、頻度やコスト面で踏み切れず。

＜ディスカッション＞

- ・ものづくり DXWG の方向性を確認。DX 導入が進んでいない企業向けに議論を進めるのか、先進技術や実証事業を推進するのか。
- 中小企業向け DX 導入と先進技術推進のどちらかに偏るのはもったいないと感じる。先進事例を探究しつつ、それを中小企業に落とし込む形で議論を進めてはどうか。
- ・DX 推進は各社単独では困難。共通の PF の必要性があるのではないか。
- 非競争領域であれば情報共有等の協力は可能。中小企業には協力できる場を設けることが必要。
- ・IoT モニタリングシステムは有線で実施しているか。
- 4G 回線でクラウド連携。サービス提供側が一括管理。
- ・株式会社オーテックは自社のサービスをどうやって広げていくのか。またDXはどうすれば広がると思うか。
- サービス化という意味ではAIシステムを売っていきたい。話しをしていると〇〇さんみたいな人が欲しいという話になるが、人はあげられない。そこから人材教育のプログラムを売ることになった。ただAIのプロダクトを買えば良いわけではないため人材育成を重視するべきではないかと思う。